

北京の青空の下から

灰色の空、苦い空気、日本人に対する厳しい視線。皆さんは北京についてのイメージを持っているだろうか。私は2013年から北京の在中華人民共和国日本国大使館へ出向し、書記官として勤務している。日本の友人からは北京での生活について心配していただくことも多く、とてもありがたく思う反面、やや申し訳ない気持ちにもなる。何故なら、北京生活は皆さんが思う程悪くはないからである。確かに日本と比べると空気が良くないのは事実だが、報道されるような重大な汚染となるのは1年のうち1割程度であり、抜けるような青空の日も少なくない。報道を通じたイメージというのは往々にして一面的である。

私が所属する広報文化部では、青少年交流や地方間交流といった「民間交流」を通じて対日理解の促進に努めている。2012年に日中関係が急激に悪化し、赴任当初はその影響が色濃く残っていた。90%以上の国民が互いの国に「良くない印象」を抱き、多くの交流事業がストップしていた。日中間の「民間交流」は他国とのそれとは意味合いが大きく異なる。日中政府間の関係が難しい問題を抱えているからこそ、日中関係そのものを破綻させないため、多様で豊富な「民間交流」が不可欠である。今般、そのような「民間交流」が、深刻なダメ

ジを受け、日中関係は国交正常化以降最悪と言われるまでに落ち込んでいた。

そのような状況で、私の仕事は、「民間交流」が再開できるよう、民間団体や地方自治体を支援し、中国政府関係者と交渉することであり、自ら交流事業の企画や実施も行っている。また、日本で行政改革や公務員制度改革に従事した経験から、日本の行政制度の広報にも取り組んでいる。大学等で講義を行うと、中国の腐敗した公務員、不透明な行政への不満を背景に、中国の知識人や学生の間で透明で公正な日本の行政制度への関心は高い。このような取り組みを通じて日本への関心を高め、同時に中国の行政の改善にも多少なりとも寄与したいと考えている。

幸いなことに、2014年に首脳会談が実現して以降、「爆買」が流行語大賞となり、中国からの訪問者数が約500万人に達するなど、日中関係は改善に向かっていく。個々の中国人は、日本人が考えているよりずっと親日である。私としては、冒頭述べた日本人の中国に対するイメージがもう少し良くなることを切に願っている。このように、北京勤務では霞ヶ関ではできない貴重な経験をさせていただいている。総務省は様々な分野の仕事が出来る職場であり、チャレンジ精神溢れる皆さんとともに働けることを期待している。



在中華人民共和国日本国大使館 一等書記官

西水 徹

Toru Nishimizu

- 平成13年 4月 総務省採用
- 同 行政評価局総務課
- 平成14年 4月 同 大臣官房総務課
- 平成15年 4月 同 行政管理局管理官付(国家公安委員会・法務省担当)
- 平成16年 4月 同 行政管理局主査(国家公安委員会・法務省担当)
- 平成17年 4月 同 人事・総給局総務課調整係長
- 平成18年 6月 米国留学(シラキュース大学・南カリフォルニア大学)
- 平成20年 7月 内閣官房国家公務員制度改革推進本部事務局参事官補佐
- 平成22年 7月 総務省行政評価局総務課課長補佐
- 平成23年 1月 同 人事・総給局総務課課長補佐
- 平成23年 8月 同 自治税務局市町村税課住民税企画専門官
- 平成25年 7月 現職

活躍の場は海外へ

在外公館で活躍する総務省職員たち

多様な立場と幅広い活躍の場

総務省は地方自治体とのつながりが深く、現場と本省とを行き来するなかで様々な経験ができるのが魅力だと言われます。自分も10数年前の採用活動の際に、先輩からのメッセージを読み、魅力の一つとして感じました。そして、総務省の先輩方からは、机上の空論ではなく現場での経験を背景とした地に足の付いた意見や熱い思いを伺い、自分も社会人としてこのような人々と仕事したいと思い、総務省の門をたたいたことが思い出されます。

いまは、外交官として在英大使館で、英国内政の分析を担当するとともに、日英間の地方自治体の連携推進の担当をしています。具体的には英国の中央省庁や地方自治体の担当者等との意見交換を通じて英国内政の動向を確認するほか、地方自治制度や選挙制度等に関する実態を調査し、日本の行政に活かすことが主な内容です。しかし、いつも話を聞くだけではなく、日本には英国よりも優れた制度が数多くあり、場合によっては日本の制度について説明を求められ、意見交換することもありますし、さらには英国に駐在する諸外国の外交官と意見を交わす機会もあります。そのような場合、歴史や習慣、文化など物の見方が全く異なる人々に対し、これまで自分が培ってきた経験や知識を総動員して説明することは大変ではありますが、これまで考えたこともなかったような視点からの意見を聞く貴重な機会でもあり、自分の幅を広げられる瞬間でもあります。

外交官の使命は外交交渉や情報収集だけではなく、日本のセールスマンとしての仕事も重要です。地方自治体で勤務しているときには、その自治体のセールスマンとして、いるんな機会にその自治体の魅力をPRしますが、在外公館での勤務は日本全体のセールスマンとして、日本のファンになってくれる人を増やすという重要な役目になります。

入省から10数年がたち、これまで霞ヶ関での勤務の他に市役所や県庁などで勤務する機会を得る中で、一つの物事をいるんな立場から見ることの大切さを認識してきましたが、英国という新たな領域でさらに視野を広げる貴重な機会を得ています。総務省では、市町村から都道府県、各省庁さらには国際機関や在外公館まで多様な立場で経験をすると機会が用意されています。これほど多様な立場で、かつ幅広い活躍の場が用意された職場というのはあまり見当たらないのではないのでしょうか。「総務省でどんな仕事ができるのか」よりも、総務省という幅広いフィールドでどんな仕事をしたいのか、そして自分をどのように成長させたいのか、将来の自分を思い描いてみてください。総務省はきっと皆さんの希望を叶えられる職場だと思います。皆さんと一緒に働くことを楽しみにしています。

在英日本国大使館 一等書記官

刃刀 岳秀

Takehide Kunugi

- 平成15年 4月 総務省採用
- 同 自治府政局財務調査課
- 平成15年 8月 富山県経営企画部市町村課
- 平成17年 7月 総務省総合通信基盤局電気通信事業部料金サービス課
- 平成19年 7月 同 自治行政局公務員部福利課
- 平成21年 4月 広島市企画総務局企画調整部調整担当課長
- 平成22年 8月 新潟県総務管理地域政策課長(兼 雪対策室長)
- 平成24年 7月 同 財政課長
- 平成26年 4月 総務省自治大学校教授
- 平成27年 3月 現職



ASEAN日本政府代表部 一等書記官

吉田 弘毅

Koki Yoshida

- 平成14年 4月 総務省採用
- 同 総合通信基盤局電気通信事業部事業政策課
- 平成16年 7月 同 大臣官房秘書課
- 平成17年 8月 同 総合通信基盤局国際部国際経済課 多国間経済交渉室通商経済係長
- 平成19年 7月 米国留学(カリフォルニア大学サンディエゴ校)
- 平成21年 7月 総務省情報流通行政局情報通信作品振興課課長補佐
- 平成21年 8月 併任 同 情報流通行政局情報通信作品振興課 アイピーテレビ調整官
- 平成23年 7月 内閣官房情報セキュリティセンター参事官補佐
- 平成25年 4月 現職



ASEANで「自分だからできる仕事」を探して

● 注目を集めるASEAN

私は、インドネシアにある東南アジア諸国連合日本政府代表部(ASEAN代表部)に勤務しています。当代表部は、東南アジア諸国連合(ASEAN)と日本政府との外交関係の窓口です。私のミッションは、情報通信分野(ICT分野)で、双方が共通して直面する課題の解決、日・ASEAN関係の強化、日本人・技術・企業の展開の支援をすることです。経済発展が著しいこの地域にASEAN共同体が設立された「時代の変り目」に勤務できることは貴重な経験です。本稿を読む皆さんに私が感じている「やりがい」や「楽しさ」を伝えたいと思います。

● ICTで課題解決に貢献

第1は、防災、サイバーセキュリティ、医療・教育の改善等の全世界が直面する課題の解決にICTを活用して貢献できる「やりがい」です。私はASEAN防災人道支援調整センターと各国を日本企業が開発したICTシステムで接続するプロジェクトに携わっています。一昨年フィリピンが巨大台風で襲われた際に、このシステムを用いた被害状況の把握とASEAN10か国間の情報集約を行った結果、迅速に被災者支援が行われました。日本のICTが実際に被災者を救う場面に遭遇し「やりがい」を感じました。

● 自分だからできるプロジェクト

第2は、日本での経験を活かして、自ら企画し自由にプロジェクトを進められる「醍醐味」です。サイバーセキュリティの確保は日・ASEAN共通の課題ですが、ASEAN諸国では人材不足に悩んでいます。私は国内でサイバーセキュリティ政策に携わった経験を生かして、ASEAN初の若手人材育成プロジェクトを立ち上げました。「自分だからできるプロジェクト」が実現した時は、非常に大きな達成感を得ました。

● 多様なチーム

第3は、多様なメンバーとのチームプレイの「経験」です。日・ASEANのプロジェクトは、多宗教、多民族の11か国混成チームで行います。日本人だけでは思いもつかないアイデアを生み出せる反面、日本以上のスピードで仕事をやる国から、本番前日までほとんど準備をしない国まで仕事の流儀も大きく異なるため戸惑うことも少なくありません。放送番組の国際共同製作に関する行事をマレーシアで開催した時のことです。式典の構成が前日に大幅変更され、マレーシア側と一緒に朝5時まで準備をしたことは今でも忘れられません。ここで得たノウハウ、動じない心や相手との信頼関係は貴重な財産です。

● 面白きこともなき世を面白く

総務省はICT等を活用して日本と世界の課題解決に貢献できる職場です。総務省で、「面白きこともなき世を面白く」しようではありませんか、皆さんを待っています。